

さかさま不動産

<https://sakasama-fudosan.com/>  
問い合わせ：☎ 080-5984-7800  
(On-Co 広報・福田さん)

意気投合するお三方は、三重県鳥羽市で海洋プラスチックによる創作活動に取り組むアーティスト(写真中央)と、倉庫の貸主である水産加工会社代表(右)、2人を結びつけた漁業従事者(左)

▼奈良県吉野郡でDIYによる研究ラボ兼秘密基地づくりに汗を流すコンセプトデザイナーも、やりたい想いが叶って満面の笑み



▲成約後、店舗の改装にも関わって、フォローに務めるOn-Coの共同代表・水谷さん(写真右)と藤田さん(左)



◀マッチング第一号、名古屋市中で本屋を開業した女性が綴った借りたい想い(抜粋)

📌📌📌

**本屋を開業したい**  
 高橋さん、HROSA! 東京エリアの魅力発信ウェブマガジン

こんにちは。  
 高橋 紗穂子と申します。

わたしは地元・愛知県で本屋を開業したいと思っています。

出版関連を扱う取次で働いていました。

その時、

1. 本屋は絶対に必要だということ
2. 本屋はほとんど潰れていないこと
3. 経営が継続しづらい職種であることに気づきました。

情報(古書とも書けるけれど)にあふれ、インターネットでほとんど何でも買えることできる今、本屋に行く意義がない人がほとんどです。

では、理想に近い場所を探せる場所は、知りたがる心をおかせる場所はどこになるのか……

「自分の知りたがること」は検索できません。  
 「自分の知りたがること」までは検索できません。

本屋は、知りたがる心をおかせることができる場所です。生活の中で知識をふやすために、思考の幅を広げるために、当たり前のようについている、そんな場所です。

ですが本屋は借りたことあるから経営が立ち行かなくなり20年の間に1万軒近く廃業しています。

なりたてる本屋をつくるにはどうすればいいかと考え、東京で本屋の企画・運営を行うチームに転職しました。

そこで本を開業するための思考を働か、また出版・流通・販売それぞれの熱量を感じることができました。そして本と関係のある場所・機会を多めに気づかされました。

わたしは本屋という存在を地元・愛知県に導入したいと思っています。どうぞよろしくお願いたします。

**やりたいこと**  
 地域の個性によって細かいところは変わりますが、

- ・本の販売(雑誌、コミックから人文書まで販売をします)
- ・キオスクのような販路(デジタル利用できるもの販売、貸し・コピー・生活雑貨・グッズのフリーの店舗)
- ・イベント開催(出版物にまつわるもの、読書会)

ができたら良いと思っています。

(画像提供：さかさま不動産)

(1面から続く)

「空き家の中には、相続したものの独断では流通市場に乗せることが難しい建物や、残置物があったり改修費用がネックとなって放置されている建物が数多くあります。しかし、そういった家主さんであっても全く貸す気がないわけではなく、何かの役に立つのであれば使ってほしいと考えている人は少なからずいて、振り向いてもらうための仕組みとして思い付いたのが、借りた側の想いを可視化して広めるスタイルなんです」と、On-Coの水谷さん。「どんな目的で、どんな人が使うのかを予め把握できれば家主さんは安心できますし、親族やご近所に対しても納得・説明しやすくなりますよね。また借りた人にとっても、貸してもよいという人と直接コンタクトできるので話がまとまるのが早いし、互いに顔の見える関係性の中で信頼も芽生えます。良き理解者を得られたことが励みとなり、地域のために頑張ろうという気持ちも高まるのではないかと思います」

サイト開設から1年超で約80のやりたい想いが集まり、成約に至った事例は持続可能な本屋(愛知県名古屋市中)、オーダーメイドの自転車店(愛知県瀬戸市)、研究ラボ兼秘密基地のような社交場(奈良県吉野郡)など、2021年9月末現在で9件を数えます。

その中で一つ分かってきたのは、さかさま不動産で貸す気になった家主は、お金を得ることに価値を求めているわけではないということ。水谷さんによれば、「やりたい想いへの共感から軌道に乗るまでは無料で貸してもらえらることになったり、ありきたりの倉庫として使う申し出には乗り気ではなかった所有者さんがwebサイトを訪れ、面白いことや活気のある場所に

してくれる人なら託してもよいとマッチングした事例など、借り手の描く物語や熱意、人柄に心を動かされ、損得勘定抜きで応援したくなる現象が起こっているんです」。貸す側が借りた想いに応じて自分の想いを重ね合わせ、その後の夢を叶える挑戦に寄り添うことができる喜びに価値を見出しているところが、空き家の流通にこれまでなかった可能性をもたらしているように思われます。

さらに、環境問題の啓蒙のため海洋プラスチックゴミを用いた制作活動に取り組む元航海士のアーティストが、三重県鳥羽市の空き倉庫をアトリエとして借りたケースでは、活動趣旨に共感した地元の漁業従事者が知り合いの水産加工業者を紹介して契約が実現。愛知県丹羽郡にて看護師が訪問看護ステーション開設の夢をかなえた案件は、On-Coが希望エリアでまちづくりに取り組む団体に話をつなぎ、連携して空き物件の情報収集を行うことで貸主を探し当てることができたといいます。借りた人の情報が公になって広まることで、貸し手のみならず地域にこの人を呼び寄せたいというような動きが生まれている点も見逃せません。

そうしたマッチングを進める上で、さかさま不動産では借りた申し込みがあると、まずは運営スタッフがインタビューを実施。漠然としたイメージや理由付けを明確化する中で、物語として響くPR文がたくさん綴られています。また、記事をSNS等でシェアしたり、成約事例のプレスリリースや後追い報告などもしっかり行うことで、借りた人やフォロワーの拡大と、応援したくなる機運の盛り上げに努めています。

この9月23日には、これまでのマッチング事例のあらましや成果を発表するオンライン報告会も開催。やりたい想いを



逆転の発想で空き家活用  
新たなサービスを生み出す`気付き、の力



<https://solarcrew.jp>

問い合わせ：☎ 045-325-7133

(solar crew 代表・河原さん)



▲横浜国大生とコラボしてリノベーションした横浜市中区の元アパート。右1枚がピフォア、左2枚がアフター



▲箱根町の元ペンションに設置した太陽光発電パネルをバックに、solar crew プロジェクトへの想いを語る河原さん (コンセプト動画より抜粋。https://www.youtube.com/watch?v=3a4DO-9yWJk)

▶法人会員の美容室オーナーは横浜磯子区の「Yワイひろば」を積極的に活用し、PRイベントを開催。DIYのクルーとしても欠かせない存在のようです



▲囲炉裏が設けられ、耐震補強も完了した真鶴町の第1号拠点

(画像提供：solar crew)

現した主人公、それに応えた家主さんも交えて繰り広げられたトークセッションの様子は、YouTubeで視聴することができます (https://www.youtube.com/watch?v=xuoeKB5YZK0)。

みんなでDIY ~「遊ぶ・学ぶ・働く」で使い  
~地域とつながり、まちづくりにも貢献

空き家を安く借りてDIYして使いたいというニーズは、さほど珍しいことではありません。では、人々にDIYリノベーション体験や活用方法を考える場を提供するため、広く空き家を役立てるといったアイデアはどうでしょう？

昨年、動き出した会員プロジェクトが、「solar crew (ソーラークルー)」。「コンセプトは、つながりを生む、まちづくりのシェアリングプラットフォーム。空き家を借り受けて一から継続してリノベーションすることにより、まずはDIYに集まった人たちがつながり、現地に入って作業する中で地域住民や所有者さんとのつながりも芽生えます。さらにリノベーション後は皆で遊んだり、学んだり、働いたりする場所として有効活用し、地域にも開放してシェアすることで、まちの魅力アップや課題解決に向けたつながりへと高められていくことを期待しています」と話すのは、発案者でsolar crewを株式会社化(本社・横浜市磯子区)し、代表を務める河原勇輝さんです。

河原さんは、地域貢献活動にも積極的に携わり、3年ほど前

には空き家再生の取り組みとして、京急線・杉田駅近くの2階家を活用したコミュニティスペース兼シェアオフィス「Yワイひろば」を開業。そのリノベーションのお披露目に際して1日限定のDIY体験のワークショップを行ったところ、「壁塗りやテーブル作りも楽しかったけれど、解体もしてみたかった」「プランを練る段階から関わられたらもっと良かった」という感想が寄せられました。ピフォア状態から作り上げていくストーリーに関心を持つ人が多いことを知り、空き家のDIYリノベーションをイベント化して仲間を増やしていこうという想いに至ったそうです。

solar crewの個人会員はFacebookのグループ登録を行えば誰でも無料で加入でき(DIY体験時の保険料などは別途)、会員数は現在、200人超。一方で、運営資金を賄うため法人会員を募り、リノベーションした物件をワークスペースや販促イベント、ショールームなどとして活用してもらおうビジネスモデルが組み立てられています。

また、solar crewのDIYの要素として、蓄電型太陽光発電システムや耐震シェルターの設置を取り入れているのも注目される点。人が住まなくなると周囲に`不安、をもたらししていた空き家が、いざ災害時にはちょっとした避難所兼電力供給スポットとして機能する。`安心、を得られる場所に変えてしまう発想が、なんともミラクルです。

(4面に続く)

高齢者総合福祉施設



<https://junseien.jp>

問い合わせ：☎ 0465-34-6001



昔ながらの和の佇まいが懐かしさを醸す「みんなの家 いいざわ」の玄関①と、居間で話を聞かせてくださった（左から）管理者の諏訪部さん、計画作成担当の玉城さん



◀他のデイサービス施設もこんな民家が使われています。上が「やすらぎの家 足柄」、（小田原市久野）下が「やすらぎの家 豊川」（小田原市成田）

### (3面から続く)

第一弾となったDIY体験プロジェクトは、昨秋、真鶴町の空き家を舞台にスタート。漁港近くの建物で、獲れたての魚をその場で焼けるようにと囲炉裏が設けられたり、小さなお子さんたちも参加してペンキ塗りやウエルカムボードの作成に携わり、温かみのある佇まいに蘇りました。

こうして取り組みが具体化する中、うちの空き家も使ってもらいたいという問い合わせが相次ぎ、真鶴町における第2号棟、箱根町では元ペンション、足柄上エリアに2軒と、郊外型の活動拠点が誕生。都市域では、先の空き家再生事業による「Yワイひろば」に加え、横浜国立大学生とコラボしてリノベーションした横浜・山手の元アパート、さらには東京・浅草でも2軒の拠点が仲間入りしています。魅力的な空き家があれば、全国どこへでも視察に足を運ぶことはいとわないという河原さんですが、「solar crewの趣旨に賛同していただき、地域のために残したいという思い入れの強い所有者さんと協働することを重視しています」とも。

新型コロナウイルスの感染拡大に伴う2度目の緊急事態宣言の発令により、DIYをはじめ対面スタイルのイベントは中断を余儀なくされていましたが、ようやくこの10月からは解除となり、活動再開に夢は膨らみます。それぞれの拠点の地域特性や建物の持ち味を生かして、どんな活用のアイデアが飛び出すのか、どのようなつながりが育まれるのかが楽しみです。

## 20年以上前から民家を通所介護に活用 気持ちが和んで、生活意欲も増進

三つ目に紹介するのは、小田原市および南足柄市で高齢者の総合的な介護福祉サービスを展開する社会福祉法人小田原福祉会・潤生園（時田佳代子理事長）の取り組み。

ことし4月、伊豆箱根鉄道大雄山線・大雄山駅近くにオープンした「みんなの家 いいざわ」は、空き家となっていた築50年超の日本家屋を用いた小規模多機能型居宅介護事業所。訪れてみると、手すりこそ設けられているものの玄関や廊下の段差は残されたままです。「所有者さんが耐震補強をなさっていたこともあり、私どもではスプリンクラーなど法令上求められる必要最低限の措置を講じた以外はあまり手を加えていません」と、管理者の諏訪部美恵さんが教えてくれました。

聞けば、潤生園では20年以上前から、地域密着型のデイサービス拠点については、既存の民家を活用するスタイルが定着しているそう。当時、認知症を煩い不安定な状態にあった特別養護老人ホームの入所者が、外出先で昔ながらの民家に立ち寄った際、実に和らいだ表情を見せたというエピソードがヒントとなり、子供のころに過ごした住まいの記憶や、ふだん生活している自宅と似通った環境を提供することで、精神面の安定が得られるメリットに気付かされたといいます。

諏訪部さんによれば、「実際、こちらの利用者さんはいらした初日からすぐに馴染んで、皆さん、落ち着くとおっしゃいま

## 逆転の発想で空き家活用 新たなサービスを生み出す`気付き、の力



す。そして、日々笑顔を絶やさず他の利用者さんと打ち解け合う中で、みんなのために何か役立ちたいという意欲が芽生えるのでしょうか。食事の配膳や後片付け、洗濯物の干し入れなど、スタッフがお願いしたわけではないのに率先して関わるようになるんです。「そうした行動意欲をきっかけに自立心を取り戻し、ご自宅でなさらなくなっていた家事を再開された方もいらっしゃいます」とは、常駐スタッフ（計画作成担当）の玉城倫子さんです。

高齢者の通所サービスや居場所などに空き家を活用する動きは、1998年の介護保険法制定の辺りから盛んになり全国に広まってきましたが、潤生園がいち早くそのような取り組みに乗り出したのは、特養ホームの施設環境の中では補えない些細なサインを見逃さず、利用者本位の発想につなげることができたから。

民家活用の事業所は1997年の第1号開設に始まり、現在は10拠点で稼働。「みんなの家 いいざわ」は、増築部分でショートステイにも対応します。これらと地域包括支援センターや訪問看護・介護ステーション、小規模多機能型居宅介護施設、入居型の特養ホーム・サービス付き高齢者向け住宅・グループホームなどが有機的に結び付き、エリア一帯で利用者の状態やニーズに応じてきめ細かい介護サービスの提供を可能とするネット

ワークが整えられています。



三者三様のアイデアはいかがでしたでしょうか。目の付けどころはそれぞれ異なるものの、ちょっとしたヒントから妙案を探り当てる`気付き、の能力が素晴らしいと感じました。

そして、先の二つの取り組みは、まだまだ始まったばかり。「空き家問題は、これまでの流通ビジネスでは解決できない部分が残ったのだと、とらえています。一方で、自分たちは幸運にも20代で好意的な家主さんと巡り会うことができ、空き家を用いてシェアハウスや店舗などを運営してたくさんのお話を学び、貴重な経験をさせていただきました。そこで得られた確かな手応えを、さかさま不動産を通して若者をはじめ多くの人たちと分かち合っていきたいですね」と、水谷さん。

持続可能でよりよい世界を目指す国際目標「SDGs」も見据えて solar crew を展開する河原さんは、「住み続けられるまちづくり、のために、`つくる責任、と`つかう責任、のどちらもが大事なんです。まだ使える空き家を余らせておくなんてもったいない、有効に活かそうよというマインドを広めていけたらいいなと思っています」と、抱負を語ってくれました。

## 居住支援の推進目指し空き家・空き室を転貸

### 県の協議会の先駆的モデルが平塚で始動

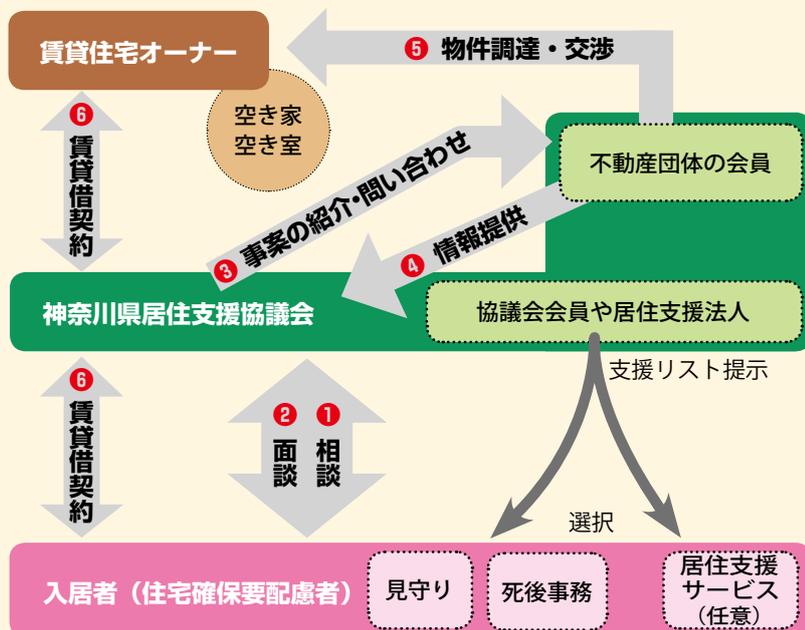
県内自治体や不動産・住宅供給団体などで組織する神奈川県居住支援協議会（会長・塩川圭一神奈川県国土整備局建築住宅部長）は今年度より、高齢者や障害者の住宅確保要配慮者に対する支援策として賃貸住宅の転貸事業を立ち上げ、その第1号となる契約が9月下旬に成立。取り組みが動き出しました。

借りたい物件があるのにオーナーからの承諾を得られない事案に際して、同協議会が物件をオーナーから借り上げ、転貸するもの。今回の案件は、平塚市内で住まい探しをしていた相談者のため、地元の「あんしん賃貸住宅協力不動産店」が仲を取り持ち実現しました。入居に際しては見守り等の居住支援メニューの利用を必須とし、入居後の心配に居住支援協議会が対応することで、住宅確保要配慮者の中でも個々の難しい事情を抱えて敬遠されがちな人たちが賃貸住宅を借りられるシステムとなっています。（右のスキーム図参照）

この取り組みは、2020年度の「空き家対策の担い手強化・連携モデル事業」（国庫補助事業）の採択を受けて検討が行われ、全国に共通する課題の解決に向け、居住支援と結びつけて空き家・空き室の利活用を図るための先進的な仕組みとして提案されました。事業の実施に必要な汎用性のある契約様式もまとめられて、同協議会のホームページ＝<http://www.machikyo.or.jp/kyojyushien/>で公開されています。

詳細のお問い合わせや具体的な住まい探しのご相談は、事務局のかながわ住まいまちづくり協会 ☎045(664)6896へ、ご一報ください。

【神奈川県居住支援協議会による転貸事業のスキーム】



# Topics

## まち協が家財整理サービスに参入

### 3つの居住支援法人が連携し、確かな事業者を紹介

親が他界し、実家そのままの状態に放置されている、遠方に住んでいて空き家の管理ができないなど、お悩みの方。また、実家を相続したが、遺品の整理などで何から手を付ければよいかわからない、思い出や貴重品を整理したいけれど、まとまった時間が取れなくて困っている方。施設入所が決まり、引っ越しをされる高齢の方やご家族。その他、賃貸住宅の貸主や不動産管理会社の方でも、室内で入居者が亡くなったお部屋を片付けたいとか、ペットの臭い等が取れないお部屋があることで、苦慮されている方も多いと思います。

そんな悩みに、住宅確保要配慮者居住支援法人がタッグを組んで応えます。

家財整理や遺品整理に関して、見積もりとは異なる追加請求

や処分を依頼された家財を不法投棄するなど、知識や経験不足によるトラブルが増加傾向にあります。このようなトラブルに遭わないために、神奈川県住宅確保要配慮者居住支援法人である(公社)かながわ住まいまちづくり協会、ホームネット(株)、(一社)家財整理相談窓口が連携して、豊富な知識と経験を有する家財整理事業者を案内するサービスを開始しました。

まち協ではこれまで、住宅確保要配慮者の賃貸住宅への住まい探し相談、入居中の見守りを実施してきましたが、退去時の家財整理も居住支援の大事な要素ととらえ、入居時から退去時までトータルに支援します。

作業をご検討の方は、ホームページ (<http://www.machikyoo.or.jp/news/database.cgi?cmd=dp&num=40>) をご覧いただくか、☎ 045-664-6896 (かながわ住まいまちづくり協会事業課) にてご相談ください。見積りは無料で行っています。

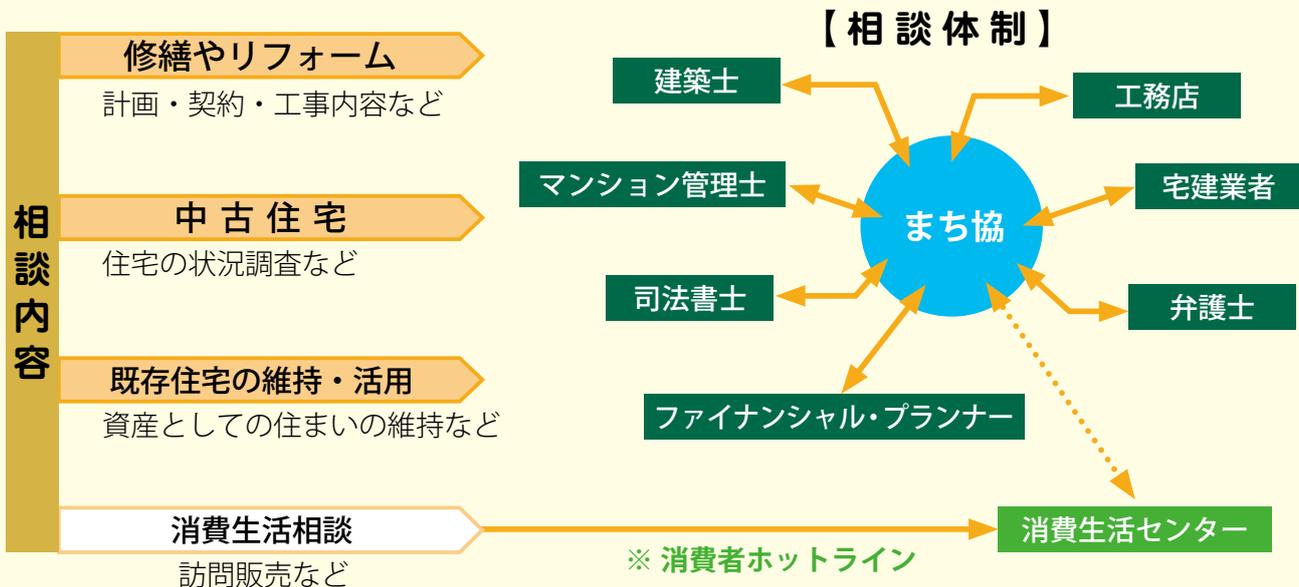
なお、整理作業の契約は直接、事業者となさっていただき、料金の支払いは原則、当日現金払いとなっています。整理作業後に不要となった品物に関しては、提携業者にて買い取り、作業料金から相殺することも可能です(契約は別途)。

## 住まいでお困りの方に

## まち協 我が家の相談室 がアドバイス

来年1月末まで開設

「まち協 我が家の相談室」では、修繕・リフォームの方法や工事でのトラブル、中古住宅への不安など、お住まいで困っている方を対象に、専門家による相談をお受けしますので、ぜひご利用ください。相談内容によっては、複数の分野の専門相談員が連携して対応します。



ご相談は、かながわ住まいまちづくり協会に電話又はファクスでお申し込みください。

ファクスによるお申し込みは、まち協ホームページ(住まいまちづくりネットかながわ)から「様式1 まち協 我が家の相談申込書」をダウンロードしてご使用ください。

最初の窓口相談(2時間程度)等は無料ですが、再相談や現地相談は一部ご負担いただきます。

お問い合わせ、お申し込みは

かながわ住まいまちづくり協会

Tel.045-664-6896 Fax.045-664-9359

※ 消費者ホットラインは、局番なし 188 (身近な消費生活センター等につながります)

## マンション管理組合の悩みに 専門家が現地へ赴きお答えします

### 県のアドバイザー派遣事業（無料）のご案内

「管理規約を見直したい!」「今の修繕積立金の額で大丈夫?」「総会の進め方はどうしたらいいの?」など、マンション管理組合の運営に関して、神奈川県では、マンション管理等に関する専門家であるマンションアドバイザーを管理組合に無料で派遣し、管理運営等のアドバイスを行う事業を行っています。

申込期間は令和4年2月末まで（申込者が多数の場合は、早期に終了します）。横浜市、川崎市、相模原市、横須賀市を除く、神奈川県内に所在する分譲マンションの管理組合が対象です（※）。

派遣されるアドバイザーは、マンション管理士や建築士の国家資格保有者等でマンション管理の相談経験を有する専門家。相談できる内容はマンションの適正な維持管理や改修に関する次のことです。

- 管理委託契約に関すること
- 維持管理費、修繕積立金等財務に関すること
- 管理組合の設立、運営、管理規約に関すること
- マンションの長期修繕計画や大規模修繕等に関すること
- マンションの改修や耐震性の向上に関すること

なお、測定機器等による建物の精密測定や長期修繕計画の策定、修繕工事等の設計書作成など派遣の対象外となる業務もありますので、まずは事務局（一般社団法人神奈川県マンション管理士会・☎045-662-5471）へご一報ください。

※ 派遣対象外の市については、次の制度をご利用ください。

○横浜市マンション・アドバイザー派遣支援/ 横浜市住宅供給公社 街づくり事業課・☎045-451-7740
○川崎市住まいアドバイザー派遣制度/ 川崎市まちづくり公社 ハウジングサロン・☎044-822-9380
○相模原市分譲マンションアドバイザー派遣制度/ 相模原市建築・住まい政策課・☎042-769-9817
○横須賀市マンション相談【出張相談会】/ よこすかマンション管理組合ネットワーク・☎046-824-8133

## まち協・事務局だより

### ◆ 定時社員総会を6月に開催しました

長田会長は開会挨拶で、「昨年度は、対面式のイベントや相談会などで、中止を余儀なくされた事業もあったが、研修会等のオンライン開催をはじめ、窓口での接客対応は最小限とし、可能な範囲で非接触型の業務形態で行ったことから、年度を通してみると、コロナ禍の影響は限定的であった。令和2年度に予定した事業は概ね計画通りに実施され、収支についても、前年度に引き続き単年度黒字を計上することができた。



本年度も、高齢者等の住宅確保要配慮者に対する居住支援対策を中心に、当協会自身が『居住支援法人』としての役割を担い、県や市町村、その他、関係機関との連携により、県内全域に『住宅のセーフティネット』を張り巡らすことを目指し事業を展開して参りたい。」

との発言を行いました。

また、この総会では主な議案として、令和2年度事業報告及び収支決算案、並びに理事・監事の改選が承認されました。これら事業報告や決算書は、ホームページで情報公開しています。新役員の顔ぶれは、本紙第8面でもご覧いただけます。

### ◆ グリーン住宅ポイントの申請受付の期限が延長されました

グリーン社会の実現および地域における民需主導の好循環の実現等に資する住宅投資の喚起を通じて、新型コロナウイルス感染症の影響により落ち込んだ経済の回復を図るため、一定の性能を有する住宅を取得する方に対して、「新たな日常」及び「防災」に対応した追加工事や様々な商品と交換できるポイントを発行するグリーン住宅ポイント制度の申請受付は当初10月31日で終了する予定でしたが、このたび11月30日まで延長されることとなりました。

まち協でも、引き続き申請の受付窓口を開設していますので、予めご予約の上、ご来場をお待ちしています。

## 住まいとまちづくり VOL.39

2021年10月15日発行

発行／公益社団法人かながわ住まいまちづくり協会

〒231-0011 横浜市中区太田町2-22 神奈川県建設会館4階

☎045-664-6896 FAX 045-664-9359

http://www.machikyo.or.jp/

E-mail admin@machikyo.or.jp

発行人／長田 喜樹

編集責任者／塚田 操六



JR根岸線・関内駅北口、南口から徒歩5分  
横浜市営地下鉄・関内駅1番、3番出口から徒歩5分  
みなとみらい線・日本大通り駅1番出口から徒歩5分  
みなとみらい線・馬車道駅7番出口から徒歩10分

横浜メディア・ビジネスセンター隣

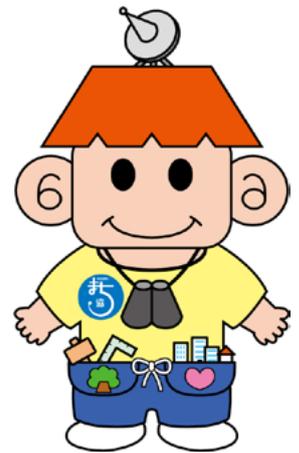
★安心・安全の住環境★ ゆとりある住生活

# 神奈川Lifeを応援します。

公益社団法人かながわ住まいまちづくり協会・執行体制及び団体会員 (2021年10月15日現在)

## 【役員】

会 長	長田 喜樹 (前 一般社団法人神奈川県建築士会副会長)
副 会 長	松下 克彦 (神奈川県住宅供給公社理事 兼 高齢者事業部統括部長)
	松尾 文明 (一般社団法人神奈川県建設業協会会長)
	中島 小百合 (株式会社神奈川新聞社読者コミュニケーション局地域連携事業部長)
専務理事	塚田 操六 (公益社団法人かながわ住まいまちづくり協会専務理事)
理 事	塩川 圭一 (神奈川県県土整備局建築住宅部長)
	漆原 順一 (横浜市建築局住宅部長)
	長澤 貴裕 (川崎市まちづくり局住宅政策部長)
	玉野 直美 (一般社団法人神奈川県建築士会常任理事)
	山口 英生 (一般社団法人神奈川県建築士事務所協会副会長)
監 事	須藤 亮二 (前 一般社団法人神奈川県建築士会専務理事)
	三杉 三郎 (前 一般社団法人かながわ土地建物保全協会技術管理部技術顧問)



マスコットキャラクター  
まちきょん

## 【顧問】

鈴木 富男 (前 公益社団法人かながわ住まいまちづくり協会専務理事)

<http://www.machikyo.or.jp/>

## 【相談役】

佐藤 嘉明 (元 社団法人かながわ住まい・まちづくり協会専務理事)

## 団体会員名簿

### 【正会員\_自治体】

計 6

神奈川県 横浜市 川崎市 相模原市  
横須賀市 藤沢市

### 【正会員\_企業】

計 8

アットホーム 株式会社  
株式会社 市川屋  
神奈川ロイヤル 株式会社  
川本工業 株式会社  
株式会社 ジェイエーアメニティーハウス  
ホームネット 株式会社  
株式会社 松尾工務店  
横浜信用金庫

### 【正会員\_組合等】

計 15

一般社団法人 神奈川県建設業協会  
神奈川県建設労働組合連合会  
一般財団法人 神奈川県建築安全協会  
一般社団法人 神奈川県建築士会  
一般社団法人 神奈川県建築士事務所協会  
神奈川県住宅供給公社  
神奈川県住宅保全協同組合  
公益社団法人 神奈川県宅地建物取引業協会  
一般社団法人 かながわ土地建物保全協会  
一般社団法人 神奈川県木造住宅協会  
公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会  
一般財団法人 川崎市まちづくり公社  
公益社団法人 全日本不動産協会神奈川県本部  
公益財団法人 日本賃貸住宅管理協会神奈川県支部  
一般財団法人 若葉台まちづくりセンター

### 【賛助会員\_企業】

計 9

一般社団法人 家財整理相談窓口  
一般社団法人 神奈川県空調衛生工業会  
社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会  
株式会社 神奈川新聞社  
NPOかながわマンション管理組合ネットワーク  
株式会社 建通新聞社神奈川事務所  
有限会社 駒瀬印刷所  
野崎印刷紙器 株式会社  
富士フィルムビジネスイノベーション ジャパン 株式会社

【正会員】 自治体 6 組合等 15 企業 8 個人 46 【賛助会員】 企業 9